

収益構造リノベーション

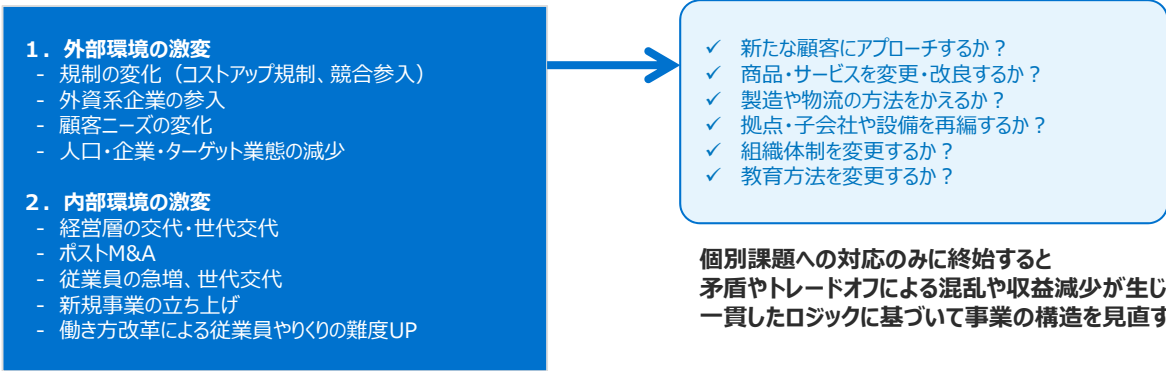
目的

過去の成功モデルとは異なる新たな収益モデルの導入

- 同じ顧客・商品を対象としていても各社の収益源は異なるがその本質部分は見えにくい。事業の構成要素を外から見えない部分まで分解し、組み立て直すことで「他社が形だけ真似しても利益にならない」構造をつくる。

1 収益源の見直し 待たなし

市場環境、社内環境の不可逆な変化が各社の収益を常時圧迫するようになっていきます。「景気」が止みつづける今が構造的な見直しができる最後のチャンスになります。

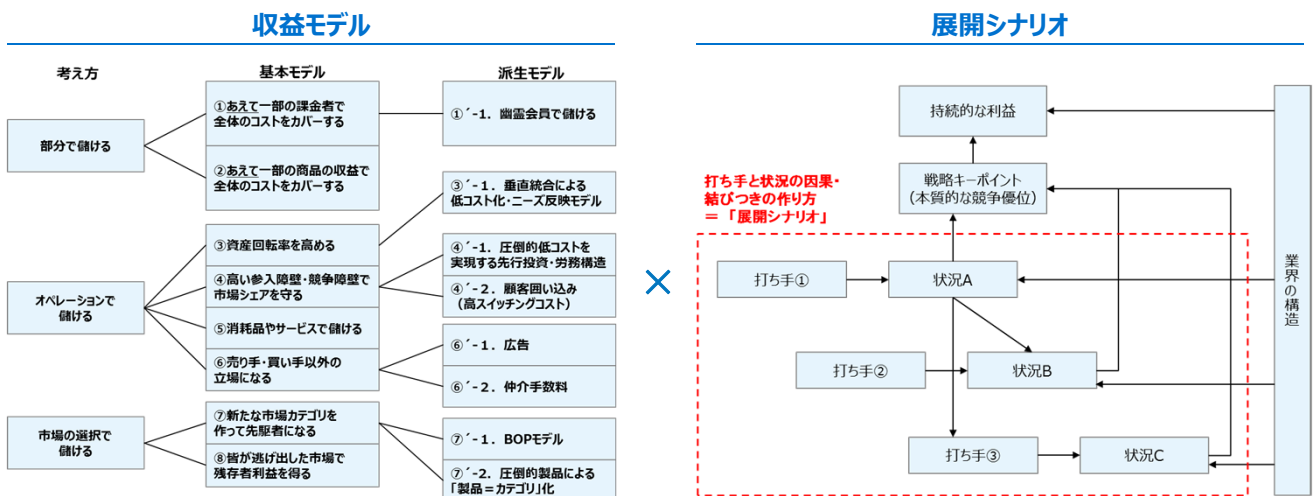


出所：日本総研作成

2 収益構造は「収益モデル」「展開シナリオ」で転換

収益を生む実質的な仕組みはモデル化できます。収益モデルを自社流に置き換え、適切な打ち手を順に展開し社内外の収益モデルを構成する状況を生み出すことが収益構造リノベーションの作業です。

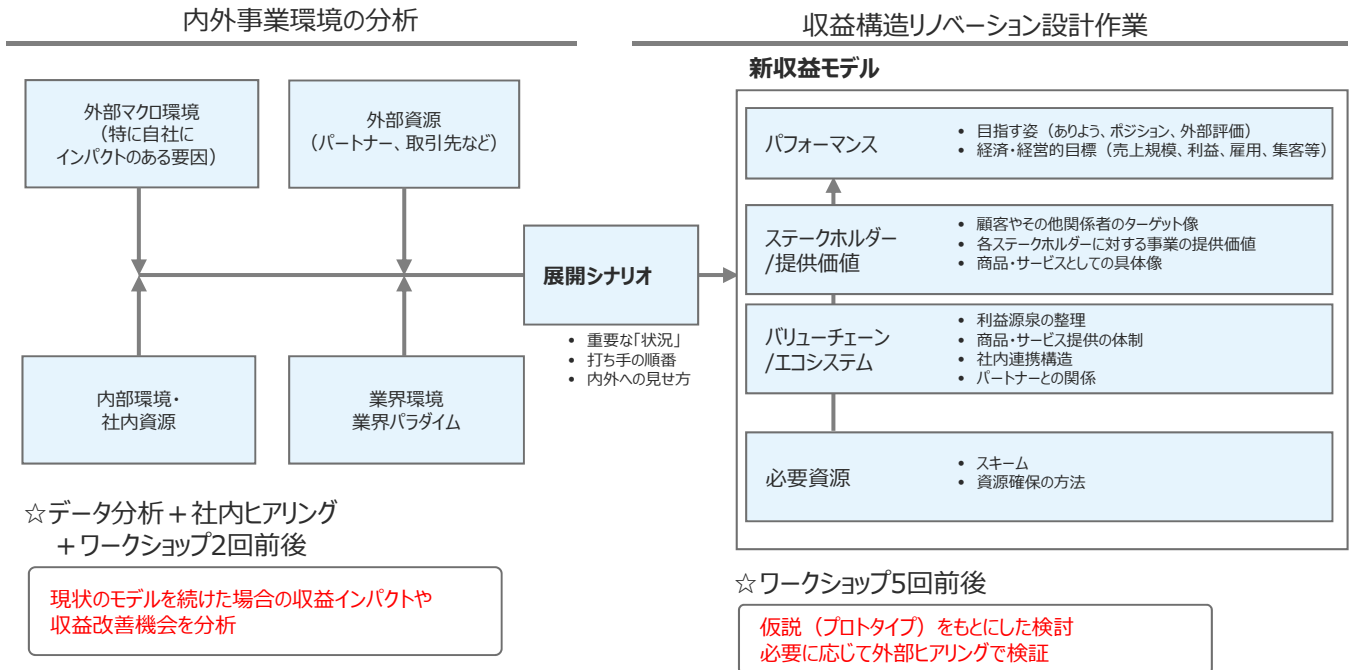
「最初から誰もまねたがらないようなこと、つまり『一見して非合理的な要素』を入れた方が、持続的な競争優位につながるのではないか。これが私の考えです。（一橋大学 楠木建教授）」



出所：日本総研作成

3 コンサルティングの概要

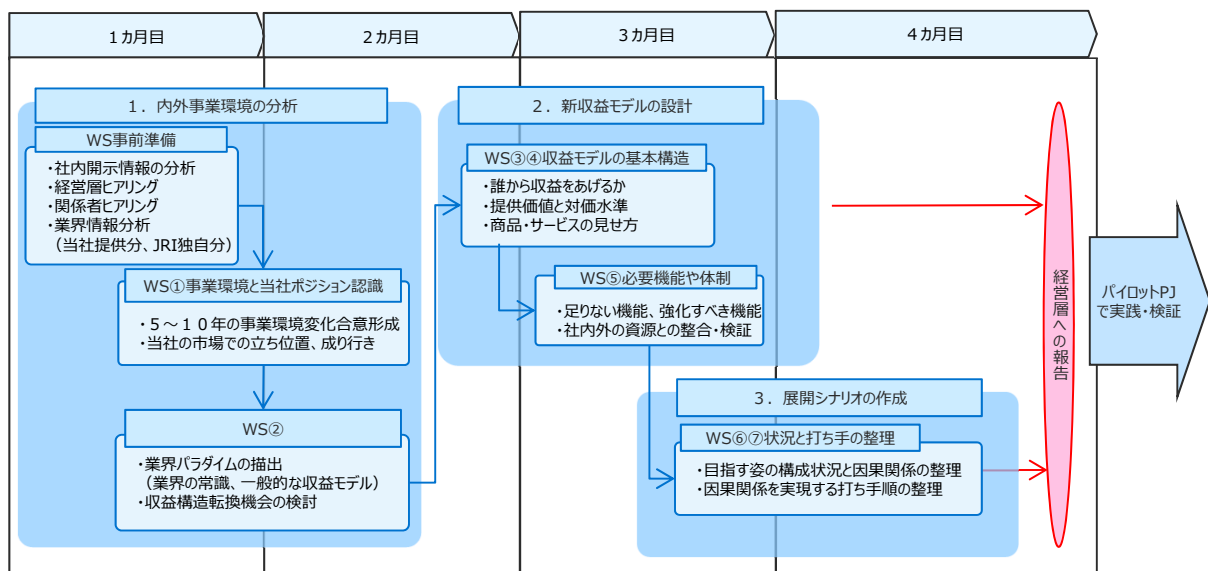
収益インパクトの面から内外環境を整理します。その後、目標とするパフォーマンスに向けた価値提供の構造のあり方と必要機能・体制、展開シナリオを検討します。



出所：日本総研作成

4 スケジュールイメージ

標準的なスケジュールでは4カ月で7回のワークショップを行いリノベーション検討を進めます。その後はご要望に応じてパイロットプロジェクトの組成と側面支援を行います。



株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門

E-mail: rcdweb@ml.jri.co.jp

〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-2-4 TEL:06-6479-5530 (部門代表)